

[司会挨拶] 野口 旭

本日の専修大学社会科学研究所定例研究会（2012年6月16日）には、予想以上にたくさんの方に来ていただき、大変ありがたく思っています。本日の司会をやらせていただく専修大学の野口です。

この会は、昨年末（2011年12月）に正式に発足した「ケインズ学会」に関連して企画されたものです。ケインズ学会の発足に先立つ一昨年末（2010年12月12日）に、日本を代表するケインズ研究者、マクロ経済学者が数多く参加し、上智大学にてケインズ・パイロット・シンポジウムが行われました。シンポジウムの内容はその後、ケインズ学会編、平井俊顕監修『危機の中で〈ケインズ〉から学ぶ-資本主義のヴィジョンと再生を目指して』（作品社、2011年）として、書籍という形で公表されました。

シンポジウムの第一部「世界経済のゆくえ・日本経済のゆくえ-ケインズの経済理論・経済政策論の視点から」は、吉川洋氏（東京大学教授）、小野善康氏（大阪大学教授）、浅田統一郎氏（中央大学教授）が報告と討論を行い、私が司会を務めさせていただきました。本日の研究会は、そのセッションのいわばフォローアップです。一昨年末のシンポジウムでは、時間の制約もあり、報告と討論を行っていただいた各先生方とも、ご自身の見解を必ずしも十分に展開できたわけではなかったかと思えます。しかし、その討論は、マクロ経済学とマクロ経済政策の現在を真正面に見据えた、まさに手に汗を握る緊迫したやりとりでした。そこで、司会をやらせていただいた私としては、このセッションの論点をさらに深めていけるような研究会を組織できないかと思案し、その機会を模索し続けてきたわけです。

そのようなわけで、本日の研究会には、上記シンポジウムの報告者・討論者の一人であった浅田先生をお招きいたしました。まずは浅田先生に、上記シンポジウムでの吉川洋および小野善康両氏の見解を踏まえつつ、改めて持論を展開していただきたく思います。そしてそれを受けて、本日お招きした片岡剛士先生（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社主任研究員）、黒木龍三先生（立教大学経済学部教授）、そして野下保利先生（国士舘大学政経学部教授）に、それぞれ討論をお願いしたく存じます。